



岡山消費者動向分析

意識調査から読み解くビジネスのヒント

Vol.61
コロナ禍における
消費活動の変化

2020年1月15日に国内で第一例の発症が発表されて1年10か月になる。この間感染者数は172万人に、死者数は1万8000人を超える。ワクチン接種は10月末までに9100万人となり、国民の72.5%が受けたことになる。夏から大きな感染の広がりが見られたが、ワクチンなどの成果なのか全国的にコロナは一旦終息に向かっているように見える。できれば、年末から正月にかけて感染の大きな波が来ないように祈るばかりである。

コロナの大幅な減少を受けて政府はGo Toトラベルやイトなど消費刺激策をとり、感染防止のための営業自粛なども制限が解除されつつある。約2年間で傷んだ経済の立て直しが必要とされる。今回はコロナ禍後の消費活動の変化についてである。

ワクチン接種後の変化

ワクチン接種後に消費行動が「やや積極的になる(なった)」で見た割合が、岡山30.0%に対し、全国17.9%と、12.1%の差が出た。調査のタイミングも影響していると思われるが、岡山の生活者の方が積極性が高いと判断される。「ワクチン接種はしない・希望していない」割合が岡山では10.7%と、全国に比べて3.8%高いことも気になる点である。インフルエンザのように飲み薬が手軽に手に入るまではワクチンで防御してほしい。

消費再開のタイミングについて、「ショッピング(生活必需品の買い物を除く)」や「外食・カフェ」の利用の再開をはじめ、すべての項目で「2回目のワクチン接種後」という回答は、全国に比べて岡山は高くなっている。「飲み会」や「日帰りレジャー・観光」、「宿泊を伴う国内旅行」は、「国内の感染収束後」が3割弱以上を占めている。いずれも全国に比べて岡山の生活者の方のポイントが高く、国内

のコロナ禍の収束が消費の再開の目安になりそうだ。感染状況が東京の方が厳しかったことによると判断される。

コロナ禍における店舗などの利用状況

コロナ禍における店舗などの利用状況で、増えているのは「インターネットショッピング」で、岡山の方が全国に比べてその割合は高くなっている。岡山45.2%（「増えた」16.7%+「やや増えた」28.5%）、全国42.6%（「増えた」13.1%+「やや増えた」29.5%）。

利用が大きく減っているのは「大型ショッピングモール」「百貨店」で、利用が減った割合は、「百貨店」、「大型ショッピングモール」ともに岡山の方が高くなっている。「大型ショッピングモール」の利用が減ったのは岡山で61.2%（「やや減った」23.6%+「減った」37.6%）、全国で48.3%（「やや減った」19.5%+「減った」28.8%）。「百貨店」の利用が減ったのは岡山で47%（「やや減った」17.2%+「減った」29.8%）、全国で40.9%（「やや減った」16.4%+「減った」24.5%）。

コロナ禍で注目されるサービス

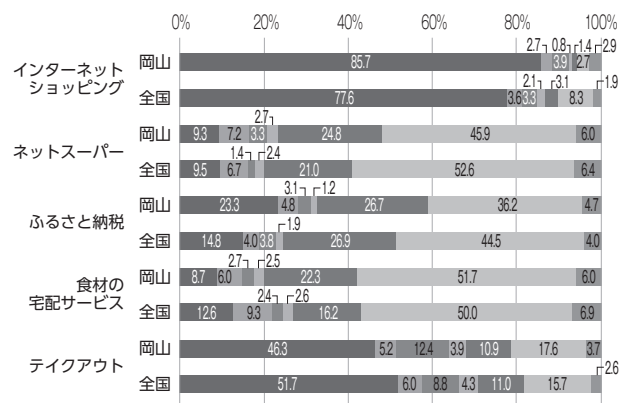
コロナ禍で新たに注目され始めたサービスで、利用が継続されているのは、「インターネットショッピング」で、岡山85.7%、全国77.6%の割合で利用されている。次いで多いのは「テイクアウト」で、岡山46.3%、

調査対象：岡山516件、全国420件
調査方法：インターネット調査
調査期間：岡山 2021.10.20~10.28、
全国 2021.8.10~8.12
調査機関：岡山情報文化研究所
十六総合研究所

全国51.7%。「ネットスーパー」、「ふるさと納税」、「食材の宅配サービス」は「利用したことはないが興味がある」という層も、岡山においては2割以上存在し、今後利用が増えていく可能性はありそうだ。

岡山の「ふるさと納税」の利用者は23.3%と、全国の14.8%に比べて8.5%高い結果が出ている。

注目されるサービスの利用状況と今後の利用意向



■ コロナ禍以前から継続して利用中 ■ コロナ禍前に利用していたが現在は利用なし
■ コロナ禍に初めて利用し現在も利用中 ■ コロナ禍に初めて利用したが現在は利用なし
■ 利用したことはないが興味はある ■ 利用したことはないが興味がない
■ 知らない・聞いたことがない

国内景気は「既にコロナ禍より前の状況まで回復している」と回答しているのは、全国2.4%に対し、岡山0.2%。「2021年中」に回復すると回答した割合も、全国2.1%、岡山0.8%と、全国の方が高い結果が出ている。地方における国内景気の回復には東京とくらべタイムラグがありそうである。

※岡山の生活者をモニターとした岡山情報文化研究所独自のインターネット調査パネル「ビズサイト」を活用（URL <http://vinsight.jp/>）